

クラウドファンディングに 挑戦しました!

プロジェクト概要

金沢発!未来のがん研究者を育む 「がん克服プロジェクト」

がんの本態解明を目指すがん進展制御研究所とWPIナノ生命科学研究所が共同で、高校生を対象とした「がん研究に関するEarly-Exposure-Program」を企画しました。高校生が実際の研究の現場に足を運び、現役の研究者から研究内容やその意義に関する説明を聞き、実験を見学・体験することを通して、がん研究の現場の興奮や興味を抱き、将来、がん研究者になることを目指すきっかけを提供する人材育成プロジェクトです。

がんは、2人に1人が患い、3人に1人の死因となる、人類最大の脅威です。人類は、古代よりこの深刻な病気に立ち向かってきました。しかし、なぜ、正常な細胞ががん化するのか、がん細胞を殺すにはどうすればよいのか、まだまだ分からないことばかりです。今後も多くの若い優秀な人材がこの研究に参加して、難題に取り組まなければ、がんの研究を発展させ、未来の医療を切り拓くことはできません。

本プロジェクトは、広く基礎研究の啓蒙、将来の研究者の発掘、その後の研究者としてのキャリア形成を見据えた長期的視野に立った活動です。



クラウドファンディング活動の報告とお礼

実行委員長 平尾 敦

この度、がん進展制御研究所では、WPIナノ生命科学研究所と共同で実施する若手人材育成事業「金沢発!未来のがん研究者を育む-がん克服プロジェクト」の資金調達のためのクラウドファンディングを実施しました(2021年7月2日~8月29日)。お陰様で、無事目標を達成することができましたので、ここにご報告いたします。まずは、貴重なご支援をいただいた多くの寄付者様に心よりお礼を申し上げます。皆様のお気持ちを重く受け止め、真摯に事業を遂行いたします。ありがとうございました。

クラウドファンディングの目的は、資金調達です。しかし、実際、やってみるとそれを越えた複合的な意義があることを知りました。この活動を通して、「研究」は、教育、医療、産業など、社会と深く関わっており、もっと様々な方面に活動を展開できる可能性があることを実感しました。一方で、やるべきことは多く、とにかく様々な方の協力が必要ということも痛感しました。今回は、幸運にも、素晴らしい協力者に恵まれ(本当に!)、それぞれの担当で存分に能力を発揮いただけたことが、成功の要因であったと感じています。関係の方々には、改めてお礼を申し上げたいと思います。

1 実行委員会の皆さん:拠点推進室の遠藤良夫先生、河合有香さん、薬学がん研支援課の吉田元博係長には、終始一貫、事務局として全ての作業の遂行に携わっていただきました。寄付受付期間中は、日常的にSNSアカウント「金沢大・がん研・広報」での発信

やプロジェクトページの対応、新着情報の更新にご尽力いただきました。皆さん、楽しみながら(勘違い?)、やっていただいたことが大変心強かったです。松本邦夫所長、平田英周先生、佐藤拓輝先生には、毎週のように行われたミーティングや折につけご意見いただき、事業の運営に貢献いただきました。特に、平田先生には、最初に「高校生対象のプログラムがいいです」という提案をしていただき、それが企画の始まりとなりました。また、同じ頃、松本所長から、何気に「一度立ち消えになったクラウドファンディング、もう一度やりたいね」と言われたことも大きな動機付けとなりました。READYFORの担当者、宮崎典彰さん、田中万由さんには、最初から最後まで、適切に指導していただきました。とにかく、プロとしての正確で明快な「指示」と「読み」には感服しました。

2 事業協力者:最初の段階で、クラウドファンディング事業に賛同し協力をいただける方を募った際、20名あまりの有志の方に手を挙げていただきました。特に医学系の河崎洋志先生には、SNS発信や企業のご紹介など大変お世話になりました。これらの方々は、ファンディング期間を通して身近な方々に声を掛けていただくなど、まず、コアな賛同者として支えていただきました。

3 プログラム担当の先生方:具体的な計画を練る際、まず、研究体験のプログラム(ベーシックコース)担当者を募集することにしました。皆様、お忙しいにもかかわらず、快くお引き受けいただき大変助かり

ました。また、プロジェクトページにおいて、ご自分の研究概要やこのプログラムでの内容を短く、わかりやすくご紹介いただき、大変魅力的な構成となりました。

今回、この充実したプログラムを構築できたことが、寄付者の方々にクラウドファンディングの意義を理解いただけた大きな要因となり、成功につながったと思います。

4 ナノ研事務室(広報)の方々:米田洋恵さんには、プロジェクトページ作成にあたり、文章構成やイラストを担当いただき、一般の方にもとてもわかりやすい内容紹介記事ができました。また、ホームページ、ポスター、基金ニュース用のとてもきれいなイラストを描いていただきました。その他、広報に関する情報提供やPV動画の作成など、プロフェッショナルぶりを存分に発揮いただきました。また、高島秀彰さん、今永藤子さんには、新着情報やSNSでの発信を担当いただきました。特に、高島さんには、SNSの拡散イベント活動大詰め期間後半において、献身的に発信いただきました。皆さんには、ある意味、URA・事務方の範囲を超えた(特殊な?)行動力を感じました。

5 新着情報に応援メッセージを寄せていただいた方:がん研、ナノ研の研究者、大学院生、学内の関係者、共同研究者、がん研OB、高校の校長先生など、たくさんの方から励ましのお言葉を頂戴しました。それぞれの立場や個人的な思い、率直なご意見、どれも示唆に富み、大変心強く感動しました。御寄付いただいた方にも十分に伝わったと思います。

6 附属高校の校長先生:中澤宏一先生に、突然「今度こんな活動を計画しているのですが、高校側のご意見いただけませんか」とメールし、押しかけて行ったのにもかかわらず、大変快く対応いただきました。その中で「本物に触れる」ことで高校生はさまざまなことに興味・関心を持つ、それが、探究的学びの入り口だ、と

いう言葉をいただき、大変感じ入りました。今回の活動は、高校生にとって意義(ニーズ)があるということを教えていただきました。

7 SNSで取り上げていただいたインフルエンサーの方:実行委員の平田先生のご紹介でアラバマ大学の須賀覚先生にご協力いただきました。須賀先生は、Twitterフォロワー5万人という大変影響力のある方です。お陰様で、SNSでの情報が予想を大きく超えて、驚くほど拡散しました。このことで、これまで本研究に関係のなかった一般の方にまで広く周知することができました。

8 大学広報の方:大学ホームページの一番前の「特等席」をご提供いただきました。担当の奥野麻理子さんには、地元報道機関に連絡を取っていただき、お陰様でNHKの地元ニュース、北國新聞、北陸中日新聞にもご紹介いただきました。大変反響がありました。

9 基金室の方:中山敏泰さんには、寄付金に関する仕組みや情報を丁寧に教えていただきました。また、基金ニュースでの配信にご協力いただき、大変助かりました。

10 法人役員の方:財務担当大西理事、基金室担当大竹理事には、当初より「がんばれ」と励ましていただきました。山崎学長には、「寄付集めは甘くないぞ!」とまずは、ありがたいご忠告をいただき、「さて、どこに声をかけたら集まるかなあ」と親身に考えていただきました。

他にもここに書き切れないくらい多くの方々にお世話になりました。個人的には、今回の活動でのもっとも大きい収穫は、「本研究所がたくさんの方に応援いただいていること」を実感できたことでした。つぎは、来年夏の実施に向けて、準備を進めて参ります。今後ともどうぞよろしく願いいたします。



第一目標金額 150万円 → **ネクストゴール 300万円**

公開5日にして第一目標額を達成いたしました。ありがとうございました!

第一目標を達成したことから、さらにプログラムを充実させるため、ネクストゴール300万円を設定し、挑戦を続けさせていただきました。

寄付総額 3,134,000円 +10,000円(直接申込分)

(実施期間59日 寄付者156人)

がん研究の発展と未来の研究者を育成することに、大きな関心をお寄せいただき、大変多くのご支援をいただきました。皆様には心より御礼申し上げます。

支援金の
使途内訳

実験消耗費、セミナー実施に必要な経費、通信費・広告費、報告書の印刷代、事業に必要な諸経費、手数料等。

実施時期

2022年1月~2023年12月の間に、セミナーおよび研究体験コース実施予定です。但し、やむを得ない事情により完了できなかった場合は、実施期間を延長することで対応します。